

日本神経精神薬理学会
第53回理事会（2012年度）議事録

日 時：2012年10月17日（水）13:00～16:00

場 所：宇都宮東武ホテルグランデ 4階 「さつき」
（〒320-0033 栃木県宇都宮市本町5-12 TEL:028-627-0111）

出席者：山脇成人（理事長）、池田和隆、石郷岡純（会長）、大熊誠太郎、大森哲郎、荻田喜代一、
鈴木 勉、仲田義啓、中村 純、山本経之 各理事
齋藤利和 アドバイザー

欠席者：神庭重信、曾良一郎、西川 徹、野村総一郎、南 雅文、山田清文 各理事
加藤進昌、馬場明道 各監事
米田幸雄 アドバイザー

記 録：中川庸幸（事務局：学会支援機構）

冒頭に山脇成人理事長から前回（第52回）理事会議事録（案）および持ち回り理事会議決事項一覧が提出され、異議なく承認された。

I. 報告事項

1. 第42回年会（第22回日本臨床神経薬理学会と合同開催）準備状況報告について

石郷岡純会長から本年会開催に関する以下の概要が報告され、開催にあたり関係各位に謝辞が述べられた。

下田CNP会長と相談しながら、NP・CNPともにバランスのとれたプログラムを企画した。また、19日（金）には、昨年に続き合同委員会特別企画として“両学会の今後を考えるー再び統合をめぐるー”を開催する。今回は他のプログラムが無い時間帯で枠を設けた。評議員・一般の会員も含めた活発な議論を期待したい。

2. 第41回年会（第21回日本臨床神経薬理学会と合同開催）収支報告について

鈴木 勉前会長から会計収支を含めた開催報告がなされた。なお、収支差額分の取り扱いについては、合同年会事業における納税金額を差し引いた金額から両学会で折半し返納手続を行った。また、野村CNP会長と話し合い、東日本大震災の年であったため、精神科領域の被災地支援として“東北3県心のケアセンター”へ300万円の寄附を行ったことが、併せて報告された。

3. 各委員会報告

a. 総務・広報委員会（池田理事）

1) 以下の通り会員報告（2012年4月14日から2011年9月30日）がなされた。

会員数が減少傾向であるが、多年度未納者を整理したためであることが報告された。

会員数：1,178名（2012年9月30日現在）

内 訳：名誉会員 26名、功労会員 13名、評議員 176名、正会員 861名

学生会員 83名、賛助会員 19社

新入会： 52名

退 会：本人申出 15名

逝 去 1名

多年度会費未納による会員資格喪失 135名

物 故 者 名誉会員 岩崎庸男 先生 2010年9月26日 ご逝去

2) 学生更新について

学生会員制度を2011年から設置した。本年より更新手続きを行っている。10月16日現在の学生会員数は84名の登録がある。本年度入会者・更新届の提出者は、45名で、未提出

者は 39 名であった。返答がなかった方は、前回理事会で承認された手順に従い、本理事会後に一般会員への種別変更を行い差額分の年会費の請求を行う。

3) 広報委員会（池田理事）

資料に基づき、現在の本学会ホームページ掲載状況について報告がなされた。

b. 編集委員会（南理事欠席のため、池田理事）

雑誌刊行状況、依頼状況、査読状況につき以下の報告がなされた。

刊行・依頼・投稿状況、企画など

1. 刊行状況、依頼状況、査読状況

1) 刊行状況（予定含む）

31 巻（2011 年）：総説 22, MR 6, 原著 3, 短報 1 と CIMP 報告を掲載

32 巻（2012 年）：総説 25, MR 7, 原著 3, 短報 1 と AsCNP 報告等を掲載

2) 依頼状況

依頼論文で今年ご寄稿いただいた原稿は 23 編

（うち学会シンポジウム 20 編，脳の医学・生物学研究会のミニレビューは除く）

3) 査読状況

2011 年の投稿は、総説 2（うち英文 1），原著 2（うち英文 1），短報 2（うち英文 1），ミニレビュー 2 の計 8 編（うち英文 3）。2012 年の投稿は、総説 1，原著 2，ミニレビュー 1 の計 4 編である。（2012 年 9 月 21 日現在）

2. 執筆依頼・企画

例年どおり、2012 年の学会シンポジウムの中から原稿を依頼する予定。

また、一般演題の座長推薦論文制度については、来年度に向けて CNP 側の議論を待ったうえで、調整しながら準備を進めていきたい。

3. 岩崎庸男先生のご逝去による追悼文の依頼について

協議の結果、理事会から評議員の加藤 信先生にお願いすることとなり、鈴木理事から編集部から依頼の前に事前のご連絡をお願いすることになった。

c. 財務委員会（大熊理事）

2012 年 9 月 30 日現在の会計中間報告（一般・振興基金）がなされた。

1. 一般会計における予算設定科目において収入金額が減少傾向である。2011 年度年会余剰金により、今期は黒字決算になる予定である。
2. 振興基金会計では、2012CIMP 事業にてジャパンナイト・優秀演題賞の費用が計上されている。
3. 年会余剰金はあくまで臨時の収入であり、学術研究団体としては、会員の年会費を主体として活動していくことが望ましいが、魅力ある学会でないと会員数が減少し、会費収入も入らない。基礎研究分野の学会は右肩下がり傾向があるため、本会としても会員数の維持に力をいれていく必要がある。
4. 年会余剰金の取扱・会計標記について、年会会計報告では、学会の年会補助金 80 万円を相殺した形で報告しているため、本会一般会計報告でも同様の形で報告した方がよいとの意見があり、今後、統一標記の方向で修正することになった。

d. 国際学術委員会（大森理事）

特になし。

e. 学術賞選考委員会（山田理事欠席のため山協理事長）

1. 2012年 第1回日本神経精神薬理学会学術奨励賞について

今回の申請者は、委員長の所属施設であったため、規定第6条5項「選考対象者と同一の講座（大学以外の機関はこれに準ずる部局）に所属する選考委員は、その年度の選考には加わらないものとする。」であることを確認し、委員長代理として、鈴木 勉委員が就任した。1次審査は、審査委員長（代理）を含めた9名の審査員による審査スコア（4項目；各5点満点）並びに評価コメントを求め行った。9名全ての審査委員から学術奨励賞に相応しいとの評価・コメントを得たため、本申請を第1回日本神経精神薬理学会学術奨励賞受賞者として、決定した。

【受賞者】永井 拓（名古屋大学大学院医学系研究科医療薬学・医学部附属病院薬剤部）

【研究題目】ドパミン作動性およびグルタミン酸作動性神経伝達の変調と障害に関する神経精神薬理学的研究

2. 2012年 第1回日本神経精神薬理学会優秀論文賞について

当会の「学術賞」は、ここ数年、選考対象論文の減少もあり、受賞対象者がいない年が続くなど、「学術賞」のあり方について、前期理事会および関連委員会で検討を続けてきた。何回かの審議を経て、2012年、新たに優秀論文賞と学術奨励賞が新設されることになった。本年の日本神経精神薬理学雑誌 優秀論文賞（Japanese Journal of Neuropsychopharmacology Prize 2012 Award）は、従来の「学術賞」からの移行期とした。受賞名は「優秀論文賞」となるが、選考対象は、従来の学術賞同様に2011年発行分 Vol. 31 No. 1～5/6の原著論文およびミニレビューを対象として、学術賞選考委員会で選考した。審査対象論文は、原著論文3件、ミニレビュー1件の4件となった。

対象論文に対して、審査委員長を含めた10名の審査員による審査スコア（5項目；各5点満点）並びに評価コメントを求め、1次審査を行った。

それを基に2次審査を行い、2012年 日本神経精神薬理学雑誌 優秀論文賞として以下を決定した。

【受賞者】木村真一（北海道医療大学・薬学部・薬理学・毒理学教室 および 薬学教育支援）

【タイトル】Serotonin1A Receptor-Mediated Synaptic Response in the Rat Medial Prefrontal Cortex Is Altered by Early Life Stress: In Vivo and In Vitro Electrophysiological Studies

巻・号・頁：Vol. 31-1, 9-15

3. JSNP Excellent Presentation Award for C INP 2012 授賞者報告

以下の12名を授賞者として選考し、C INP2012のJapan Night会場にて表彰式を行った。

No	氏名	所属／演題名
1	菅谷 渚 Nagisa Sugaya	東京都医学総合研究所依存性薬物プロジェクト
		Influence of GIRK channel inhibition on relapse risk in Japanese alcohol-dependent inpatients
2	石間 環 Tamaki Ishima	千葉大学社会精神保健教育研究センター病態解析研究部門
		Potentiation of nerve growth factor-induced neurite outgrowth in PC12 cells by aripiprazole
3	堀 弘明 Hiroaki Hori	国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第三部
		Personality dimensions in major depressive disorder predict cortisol reactivity to the combined dexamethasone/CRH test

4	手塚智章 Tomoaki Tezuka	田辺三菱製薬薬理第一研究所
		Cuprizone early deficits accompanied by specific glial activation implicate pathophysiological changes in schizophrenia
5	大井一高 Kazutaka Ohi	大阪大学大学院医学系研究科・精神医学教室
		Impact of the Genome Wide Supported NRGN Gene on Anterior Cingulate Morphology in Schizophrenia
6	山口 拓 Taku Yamaguchi	長崎国際大学薬学部薬理学研究室
		Anxiolytic effects of Yokukansan, a traditional Japanese medicine, via serotonin 5-HT1A receptors on anxiety-related behaviors in rats experienced with aversive stress
7	早田敦子 Atsuko Hayata	大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所附属子どものこころの分子統御機構研究センター
		Pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) plays significant roles in mental function and neuronal development
8	高雄啓三 Keizo Takao	生理学研究所
		Deficiency of Schnurri-2, an MHC enhancer binding protein, induces mild chronic inflammation in the brain and confers molecular, neuronal, and behavioral phenotypes related to schizophrenia
9	西澤大輔 Daisuke Nishizawa	東京都医学総合研究所
		Genome-wide association study identified susceptibility loci associated with nicotine dependence in a Japanese population
10	大澤匡弘 Masahiro Ohsawa	名古屋市立大学大学院薬学研究科中枢神経機能薬理学分野
		Effect of L-carnosine on repeated social defeat stress-induced behavioral and neurochemical changes in mice
11	木村 大 Hiroshi kimura	千葉大学大学院医学研究院精神医学
		Effectiveness of long-acting risperidone for patients with treatment refractory schizophrenia
12	梶村昇吾 Shogo Kajimura	京都大学教育学部教育心理学系
		Involvement of the 5-HT2A receptor gene polymorphism in impulsivity, in trait anxiety and in activity of VLPFC: A NIRS study

f. 長期計画委員会（石郷岡理事）

以下の報告がなされた。

1. 統合問題については、NPからCNPへ要望書をお送りしており、その回答待ちの状態である。CNPでも統合に関するアンケートを行っており、本日の合同委員会において進展があれば、報告する。
2. 今後の新たな活動では、①国際交流の推進と②トランスレーショナル推進を2本柱として、関係委員会と連携し進めていきたい。

g. 研究推進委員会（曾良）

特になし。

h. 倫理委員会（中村）

特になし。

i. トランスレーショナル（仮称）委員会（石郷岡理事）

1. 持ち回り理事会にて、委員会の発足が承認されたため、以下の先生方に委員を依頼し内諾を得た。10月19日に第1回委員会を開催し、今後の活動方針について検討する。委員会で議論した内容は、次回理事会にて報告する。
委員長 石郷岡純 東京女子医科大学医学部精神医学講座
委員 久住一郎 北海道大学大学院医学研究科 神経病態学講座精神医学分野
委員 中込和幸 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
委員 須原哲也 放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター
分子神経イメージング研究プログラム
委員 橋本謙二 千葉大学社会精神保健教育研究センター 病態解析研究部門
委員 橋本 均 大阪大学大学院薬学研究科神経薬理学分野
委員 大野行弘 大阪薬科大学薬品作用解析学研究室
2. 9月29日に東京女子医科大学でシンポジウムを開催した。国としても臨床研究を重視しており、製薬業界からも厚い期待が寄せられている。この委員会がアカデミアの受け皿にならねばと考えている。
3. 山協成人理事長から本件に関して補足説明がなされた。大手の製薬企業が向精神薬開発から撤退しており、本学会としても創薬の機運をサポートしていかなければならない。企業からは、タスクフォースのようなチームをアカデミアでも作らないと対応が難しいのではないかとの意見もあった。今回設置の委員会のみで対応することはできないので、役員各位に協力依頼がなされた。

4. CINP/ACNP/ECNP/AsCNP 報告（山協理事長）

1) ACNP 報告

ACNP から AsCNP 及び JSNP に対して各 10 名の参加枠が与えられることになった。日本とアジアが重要視されており、神経精神薬理に関するグローバルな協議をしていきたい。

2) ECNP 報告

ECNP が主導となり CINP・ACNP・AsCNP を取りまとめて、Nomenclature 委員会が組織されている。宇都宮大会でもセッションも設けたので、アジア (AsCNP) としての意見をまとめ、組織の意見として提案できる体制を構築していく。

3) AsCNP 報告

AsCNP のセントラルオフィスとオフィシャルジャーナルを韓国で担当させてほしいとの要望が依然続いている。セントラルオフィスについては、持ち回りはどうかとの提案があったが、常設事務局とした方が混乱もなく運営上効率的であることから、暫くは日本で担当することで、活動を進めていきたい。一方、ジャーナルについては、韓国のジャーナルをオフィシャルジャーナルにしてほしいとの強い要望が出ており、継続審議となっている。

来年は北京開催となるが、今回の ACNP とタイアップを目的として、中国から参加人数を 7 名追加してほしい、との要望が出ており、当初の 5 名枠からプラス 7 人の計 12 名を派遣したいとの依頼がされており、中国側のアクティビティも上がってきている。日本もよりアクティビティを上げていく必要がある。

5. 第 43 回年会（第 23 回日本臨床精神神経薬理学会と合同開催）2012 年準備状況報告（仲田次期会長）

仲田次期会長から、来年の大会開催への協力依頼と挨拶が述べられた。

- 1) 18 日（木）にプログラム委員会が予定されており、同委員会で提案したいプログラム案が配布された。仲田次期会長から NP 企画の一つとして小池龍之介先生に講演をお願いしたいとのことで、ご経歴等の資料が配布され、NP 理事会としても了承し、提出することになった。

2) プログラムアドバイザーについて

来年は、基礎系の会長開催となるため、臨床系の先生方との交流をバックアップするため、理事会・長期計画委員会が全面的に協力することが確認されている。以上のことから第43回プログラム委員案では、本学会からは基礎系の先生を多めに推薦した。このため、臨床系の4名の先生方へアドバイザーとして就任をお願いし、明日の合同委員会で提案させていただきたいとの提案と報告がなされた。プログラム委員の選任には大会長権限であるので、理事会としては承認の方向であったが、CNPからの推薦委員とのバランスを考慮し柔軟に調整していくことも併せて確認がなされた。

6. 脳科学関連学会連合報告（山協理事長）

本年7月1日に開催された脳科学関連学会連合の第1回評議員会へ本会からの評議員として派遣した石郷岡理事、池田理事とともに出席した。設立の経緯は、脳科学関連学会の意見を集約し、国へ有効な提案や提言を行い、脳科学研究の発展を目指すものである。また、山協理事長が運営委員に選出された。

7. JSNP/CINP 国際ワークショップについて（山協理事長）

- 1) CINP 理事会を本年12月に広島で開催することが決定した。また、9月にはCINPの理事長が来日し、数社の製薬会社の社長・執行部を訪問した。今回発足したトランスレーショナル委員会および国際推進WGのメンバーに協力をお願いし、主催：日本神経精神薬理学会（JSNP）共催：国際神経精神薬理学会（CINP）として、テーマ：向精神薬開発における産官学連携の今後の展望と戦略：（Future Strategy for Psychotherapeutic Drug Development Perspectives from Industry-Government-Academia Collaboration）として国際ワークショップを開催し、産官学の連携の先駆けとしたい。
- 2) 関係する企業へ案内し、「産」からは2社、「官」は政府関係者に「学」はNPの先生方に講演をお願いした。本企画は、CINP理事会でも承認されている。JSNPが主催することに意義があるので、理事会のご協力をお願いしたい。
- 3) 今回の企画は、神経精神薬理振興基金からの捻出するため、学会員に対して、理事会として活動報告を行う必要があることから、学会誌や来年の沖縄大会で理事長講演などの形で報告することになった。

II. 審議事項

1. 執行委員会の件（池田理事）

- 1) 持ち回り理事会で協議・承認された執行委員会設置の件について、評議員会／総会で諮るための新旧対照表および改定会則等が提出された。今回の改定の背景は、現在、学会は国際的にも国内的にも重要な過渡期にあり、理事会の継続性と迅速な執行体制が求められている。国際学会では、継続性を持たせるよう、執行部の立場から、前理事長、現理事長、次期理事長、総務理事、財務理事として執行体制を確立し、理事会とともに組織の重要な方針を協議し実行している。理事会の先生方には事前にご意見をお伺いし、ご了解をいただいたので、現状の会則の範囲内で対応できるよう改定案の策定を行い、会則・理事会運営規則・理事・監事選挙規定の改定案を作成した。
- 2) 執行委員会において、総務委員長と財務委員長の任期4年について、最長で6年になる可能性があり、就任期間としては少し長いのではないか。執行委員会の権限が強くなりすぎることは好ましくないため、理事会の承認事項の文言をより明確に記載しておく必要がある。など様々

な意見が出された。

- 3) 以上の議論を経た後、まずは提案された内容で試験的に運用してみることであり、評議員会へ改定案を提出することが承認された。

2. 法人化の件（山協理事長・池田理事・大熊理事）

- 1) 前回の理事会の協議にて、法人化を検討していくこととなり、総務委員会および財務委員会において、定款・会計観点から情報収集を行った。総務委員会からは、定款・評議員選出規則・役員選出規則案が提出された。財務委員会から法人化後の納税義務や基金会計の取り扱い、会計フォーマットの変更点などが示された。
- 2) 臨床系学会が法人化する理由の一つとしては、専門医制度の標榜等があり、基礎・臨床系の当会として、法人化する意義があるのか、慎重に検討した方がよいとの定款案作成の弁護士からコメントがあったことも紹介された。一方で、合同年会を開催するにあたって、NPは任意団体であり、一方は一般社団法人であることから、団体の形態も対等な立場での開催が望ましいとの意見が出された。
- 3) 昨年10月に、NPからCNPに対して、任意団体であるNPが一般社団法人であるCNPと統合する場合の要望書と合併契約書案を提出しており、現在、その回答を待っている状態である。理事会としてはその結論を経ってから議論を進めることになった。但し、執行委員会では、専門家を呼び現在の執行委員会体制の件や選挙制度の反映など、並行して協議していくことになった。

3. トランスペアレント（仮称）委員会の設置の件（石郷岡理事）

報告事項にて、記録。

4. 利益相反指針・細則（案）の件（中村理事）

本学会の利益相反指針・運営細則（案）が提出された。日本精神神経学会のものを参考に当会用に作成した。一部の標記において、「臨床研究」となっているため、「研究」へ改め、基礎・臨床研究として、評議員会総会へ提出することが承認された。

なお、大会時の発表については、本年より既に合同年会長の意向により実施しており、詳細な修正については、担当委員会と確認しながら進めていくことが確認された。

5. 2013年度予算案の件（大熊理事）

委員会活動の活性化から、会議費を増額した。赤字予算での提出となるが、2012年度は年会補助金の戻し入れ収入もあり、活性化を目的として、原案のとおり承認された。

6. 次々期会長選出の件（2014年）（山協理事長）

2014年の年会会長について、同年は臨床系の会長を推薦する年であることから、学会への貢献、地域性などが考慮され、岩田伸生評議員（藤田保健衛生大学精神科・教授）が推挙され、全会一致で承認された。併せて、2014年CINP会長は尾崎紀夫先生（名古屋大学精神科・教授）が就任されたとの報告がなされた。2014年も合同年会の方針で開催が予定されている。

7. 新評議員推薦の件（池田理事）

以下の10名が推薦されており、審議の結果、評議員として委嘱することが承認された。

入谷修司（名古屋大学大学院医学系研究科精神医療学講座）

小野久江（関西学院大学文学部総合心理科学科）

井上幸紀（大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学講座）

池田匡志（藤田保健衛生大医学部精神神経科学）

岩田修永（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）分子創薬科学講座薬品生物工学分野）

堀口 淳（島根大学医学部精神医学講座）
小林和人（福島県立医科大学医学部附属生体情報伝達研究所生体機能研究部門）
内匠 透（広島大学医学部統合バイオ講座）
川寄弘詔（九州大学大学院医学研究院）
鵜飼 渉（札幌医科大学医学部神経精神医学講座）

8. 新名誉会員・功労会員推戴の件（池田理事）

推薦資格を有する先生方へ名誉会員・功労会員の移行希望について伺い、功労会員として以下の7名の先生方から快諾を得たので、評議員会／総会へ推戴候補者として諮ることが報告された。
貝谷久宣先生，亀井千晃先生，櫻田 忍先生，永山治男先生，
原 千高先生，諸治隆嗣先生，吉村裕之先生

9. 新入会希望者承認の件（池田理事）

本年4月23日から9月25日までに正会員31名，学生会員20名，賛助会員1社の計52件の入会申込者があったことが報告され、全員が承認された。

10. その他（山脇理事長）

1) 理事・監事選挙制度の改善について

明後日10月19日の評議員会では次期理事・監事の選挙を併せて行うことになる。現行の選挙規程では、多くの被選挙人に対して参加評議員のみが投票権を有していることから、欠席評議員に投票権がないことや、現場での投票は、死票が多くなるなどの問題が挙げられる。より力強い体制にしていくためにも、立候補および候補者推薦制度を採用してはどうかとの提案がなされ、次の選挙で実施できるよう継続審議していくことが承認された。

以上

平成24年10月17日（水）
日本神経精神薬理学会
理事長 山脇 成人